1【ホテルパシフィック東京】品川駅前のこの辺りは薩摩の下屋敷であった。 **2【薩摩藩蔵屋敷跡】**田町駅前にあった薩摩の蔵屋敷。ここと下屋敷で勝海舟と西郷の無血開城談判が行われた。 **3【薩摩藩上屋敷跡】**こちらも田町。NECの本社敷地内にあたる。 **4【西郷隆盛像】**上野公園の西郷像。言わずと知れた東京名物。 **5【目黒不動尊】**西郷はここに日参し、藩主・斉彬の病気回復祈願の水垢離をした。 **6【薩摩藩焼討事件殉難者の墓】**杉並区和泉の「大圓寺」にある焼討事件殉難者の墓。「大圓寺」は薩摩藩の菩提寺である。 **7【戊辰薩摩藩戦死者墓】**同じく「大圓寺」には戊辰戦争で亡くなった薩摩藩士らの墓もある。

戦略家・西郷隆盛の巧みな挑発
歴史はきれい事だけでは動かない！

維新を過激に指揮した長州に対し、巧みな戦略で活動していった薩摩藩。今回はそんな薩摩藩を巡って散歩してみる。薩摩といえば戦国時代より勇猛で知られた島津家である。この薩摩では関ヶ原の敗戦以降、「チェスト関ヶ原！」という言葉が叫ばれていた。「チェスト」とは薩摩の気合いのかけ声であるが、要は関ヶ原の恨みを忘れないといったような意味である。そんな薩摩が徳川幕府を解体に追い込んだというのは、なかなか歴史の因果を感じさせる。

ところで江戸での薩摩藩の活動拠点は品川・田町近辺である。薩摩藩の下屋敷は、品川駅前の**「ホテルパシフィック東京（1）」**の敷地内であり、また隣の田町駅前には**「薩摩藩蔵屋敷跡（2）」**がある。後の勝海舟と西郷隆盛の無血開城談判の舞台となったのがこの二ヵ所である。また、蔵屋敷跡の向かいのNEC本社は**「薩摩藩上屋敷跡（3）」**であった。これらの藩屋敷を拠点に薩摩藩士達が江戸の町で活躍していった。

しかし薩摩といえば何といっても西郷隆盛である。上野の**「西郷隆盛像（4）」**はあまりにも有名であるが、この像には色々と面白い逸話がある。たとえば除幕式に立ち会った西郷の妻、糸子はこの像を見て「うちの人はこげな人じゃなか」と言ったとか。ちなみにこの時の除幕式が日本で初めての除幕式なのだ。また、この像はよく散歩している姿と思われがちだが、この犬は猟犬で（名前は「ツン」）を連れて兎狩りをしている姿である。

この西郷が出世したのは藩主・島津斉彬に見いだされた事による。それゆえに西郷の斉彬に対する思いは並々ならぬもので、実際、斉彬が病没した際は入水自殺を図っている程なのだ。そんな西郷の忠誠心を示す史跡が目黒にある。西郷は斉彬が病に倒れた際、**「目黒不動尊（5）」**に日参し病気平癒を祈願の水垢離したという。

このような実直なエピソードと、銅像のイメージから西郷には大らかで優しいイメージが強い。しかし、実際にはそんな単純なものではない。何しろ徳川幕府を倒した程である。当然と言えば当然であるが、本当の西郷はかなりの策略家である。有名なエピソードとしては「薩摩屋敷焼討事件」がある。政権を朝廷に返上した幕府に対し、是が非でも武力倒幕を望んだ西郷は、明らかに薩摩という証拠を残しながら江戸を強盗や放火で攪乱させた。これは幕府方を挑発し、粛清を誘発させることによって先制攻撃をさせる狙いである。「江戸城無血開城」の西郷のイメージとは、かなりの違いがあるが、歴史とはそういうものであろう。

そしてまんまと挑発に乗った幕府方は、先程の**「薩摩藩上屋敷跡（3）」**を焼き打ちし、これがきっかけとなって京都・鳥羽伏見で戊辰戦争が始まった。その戦火が江戸に及ぶのは勝海舟と西郷の談判で避けることができたが、これでいよいよ薩摩・長州を中心とした明治維新の幕が開かれていったのである。

杉並区和泉にある薩摩藩島津家の菩提寺「大圓寺」には、この焼討事件の際、犠牲となった**「薩摩藩焼討事件殉難者の墓（6）」**と**「戊辰薩摩藩戦死者墓（7）」**が並んで建っている。

8【西郷山公園】園内には鹿児島から送られた樹木が生い茂る。 **9【西郷従道の墓】**従道は多磨霊園に眠る。多磨霊園には東郷平八郎他、多くの幕末関連の人物が眠っている。 **10【九段下の大山巌像】**日露戦争で活躍した大山巌は西郷の従兄弟である。写真嫌いであった西郷の写真は残っておらず、現在よく知られている顔は従道と、この大山の顔を合成した絵である。 **11【西郷隆盛留魂祠】**勝海舟と西郷の深い関係がうかがい知れる。 **12【紀尾井坂】**大久保はここで刺客に暗殺された。 **13【大久保利通の哀悼碑】** 暗殺現場近くの清水谷公園に建立。 **14【大久保利通の墓】**青山霊園に眠る。青山霊園には西郷の妻らの墓もある。 **15【大久保暗殺犯の墓】**谷中霊園に並んで眠る。

袂を分かった西郷と大久保
それぞれの心の内はいかに……

いよいよ明治を迎え薩長による政治が始まるわけだが、薩摩と言えば西郷と並んでもう一人、「大久保利通」の存在を忘れてはならない。幕末期は主に京都での朝廷工作が活動の中心であったため江戸でのエピソードがあまりないが、明治期はいよいよ大久保の江戸改め東京での活躍が始まる。

ところがである。早くも明治六年、西郷と大久保は袂を分かってしまう。朝鮮との外交交渉を目指した「遣韓論」を主張する西郷派と「内政優先」を主張する大久保派が対立したのである。結果、西郷派は政略に敗れ、遣韓論は潰された。西郷は辞職し、鹿児島に帰ってしまったのだった。

そんな兄を心配した弟の従道は、目黒に広大な土地を用意した。それが現在の**「西郷山公園（8）」**である。これは兄が再び上京し、復帰する時に備えて用意したものであった。（後にこの土地は従道の別邸として使われ、池や洋館のある豪華な造りとなった。現在の公園内には故郷、鹿児島から送られた樹木や桜島の溶岩でできた石碑などがある。）ちなみに**「従道の墓（9）」**は多磨霊園にあり、他にも同じく薩摩藩士の「東郷平八郎の墓」などもある。

こういった従道の兄に対する気持ちが充ち満ちた「西郷山公園」であったが、その期待も虚しく、不平士族に担ぎ上げられた西郷は遂に決起し「西南戦争」が勃発したのだった。そして敗戦。西郷はとうとう自決し、その波乱の生涯を閉じた。当時の世間のショックは相当なものであったという。盟友の勝海舟も**「西郷隆盛留魂祠（11）」**を建て慰霊している程だ。この祠は現在、洗足池の勝海舟夫妻の墓の横に建てられている。

しかし誰よりもショックであったのは大久保ではなかろうか。幼い頃より同じ夢を見、共に戦ってきた西郷を、自分の指揮で、しかも逆賊という形で失ったのである。その心中たるや推して知るべしである。

しかし、その大久保も明治十一年**「紀尾井坂（12）」**にて島田一郎ら西郷を慕う六名の旧士族によって暗殺され め。大久保はこの数日前、西郷と断崖で取っ組み合いの喧嘩をし、崖下へ落ちた自分の頭蓋骨が割れて脳が痙攣している夢を見たという。何という予言的で嫌な夢であろうか。この暗殺現場の近くの清水谷公園には**「大久保利通の哀悼碑（13）」**が設置されている。亡くなった大久保は青山霊園に葬られ立派な**墓（14）**が建立されている。また青山霊園には他にも西郷の妻・糸子の墓など多くの幕末関係者が眠っている。

一方、島田ら暗殺者らは、犯行後、堂々と斬奸状を持って自首したが、全員斬罪となった。彼らの墓は**「谷中霊園（15）」**に六人並んで眠っている。

このようにして西郷・大久保という薩摩の二大人物を失った薩摩であるが、故郷の鹿児島では、西郷と敵対した大久保の人気がいまいち低いという。しかし、大久保の気持ちは、かなり複雑であったであろう。暗殺された日、大久保の懐には西郷の手紙が入っていたという。その心境はいかに。

たくみな戦略で倒幕を成功させた薩摩の西郷と大久保。
しかし彼らを迎えた運命はあまりにもせつないものだった。

薩摩 SATSUMA

西郷隆盛
SAIGO TAKAMORI

大久保利通
OKUBO TOSHIMICHI

みさわとしひろ　デザイン・イラスト制作を生業とするかたわら、見つけた銅像は三六〇度写真に収めるというコンセプトのもと、日々幕末スポットに繰り出してはコレクションを続ける。その幕末好きが高じて、ついにはオリジナルの幕末グッズを制作し販売もしている。
オリジナル幕末グッズサイト「伊呂波堂」　http://irohado.ocnk.net/

TOKYO
街に残る江戸の終焉跡
東京 幕末歩き
～品川から目黒はたまた各地霊園などなど～
其の⑦
西郷隆盛、大久保利通ら薩摩藩士
取材・文・構成◎三澤敏博（絡繰堂）
BAKUMATSU WALKING